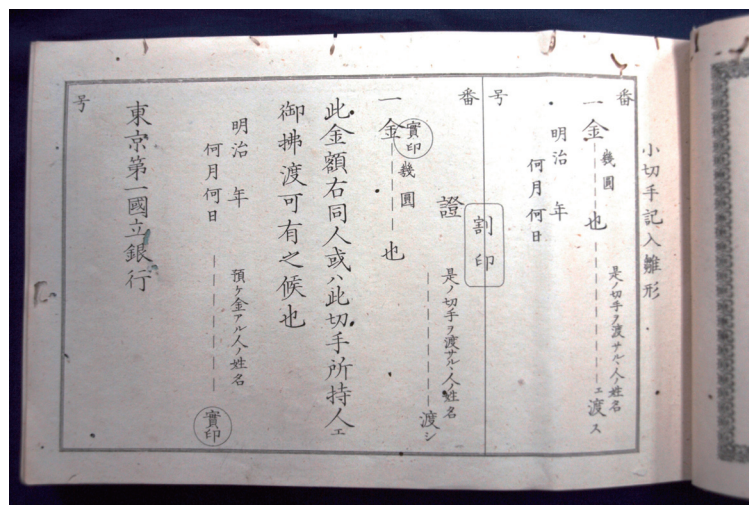


銀行の開業（第一国立銀行小切手帳）



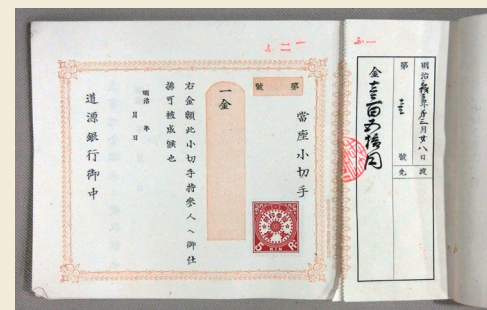
* 徳山毛利家文庫 用達所出納簿295 「第一国立銀行切手帳」

解説

国立銀行は日本最初の近代的な銀行で、アメリカのナショナルバンクをモデルに、1872（明治5）年制定の国立銀行条例に基づき設立されました。兌換銀行券の発行権を持つ銀行で、明治初年に多量に発行された不換紙幣（太政官札など）の整理と、殖産興業のための資金供給を目的としていました。

1873（明治6）年に渋沢栄一を頭取として開業した第一国立銀行ほか、横浜第二・新潟第四・大阪第五の4行がまず設立されました。1876（明治9）年の国立銀行条例改正を機に各地に国立銀行が設立され、その数は153におよびました。その後1882（明治15）年の日本銀行設立に伴い、その大半が普通銀行に変わり、各地の中核的な銀行となっていきました。今日でも「第四銀行」（新潟）や「第百十四銀行」（香川）など、銀行名に国立銀行時代のナンバーを残すものがあります。

写真は1874（明治7）年2月17日に発行された第一国立銀行の小切手帳で、旧徳山藩主毛利元功所用のものです。第一国立銀行が開業して間もないころの小切手帳で、同年2月から翌年6月まで、通し番号の24番まで使用されています。冒頭に小切手を用いた振り出し方の説明があり、「記入する時は同じ書風を用いること」などの注意事項も書いてあります。



* 写真は道源銀行の小切手帳です。道源銀行は1897（明治30）年に現在の周南市に設立された銀行で1916年（大正5）年に加島銀行に買収されました。これは1898（明治31）年のものです（勝間田家文書894「道源銀行当座小切手帳」）。